

令和3年度 第1回 福岡市総合図書館運営審議会 議事録

1 日 時：令和3年11月5日（金）10：30～12：15

2 場 所：福岡市総合図書館 3階 第1会議室

3 出席者：委 員) 高橋昇、萩尾憲子、松下誠、渡邊由紀子、箱島明子、上村篤子、豊澤絵里奈
西聡子、白根恵子、脇川郁也、脇山真治、森望、宮本直嗣（計13名）
職 員) 猪上総館長、青木館長、若山運営課長、中村図書サービス課長、
高巣文学・映像課長 他
傍聴人) 2名

4 議事録

1. 開 会

総館長挨拶／交代委員紹介／職員紹介

2. 議 事

議題 令和2年度事業報告について

委 員	図書館では色々なイベントがコロナ禍のため開催できていない状況であるが、リモート（オンライン）で開催することもできていない。福岡市子ども読書活動推進会議等はリモートで開催されていた。リアルでイベント等開催することがベストであるが、それができない場合は、リモートにて開催する方法を検討すべきであると思う。Wi-Fi等の環境整備やイベント配信手続きの学習等の使い方等の研修状況等はどのようなになっているのか。
事 務 局	コロナ禍において、おはなし会等の集まって声を発するようなイベントは開催できていなかった。リモート等でのイベントは検討しているが、まだ環境整備が整っていない状況である。今後、新たな感染症の発生や新型コロナウイルス感染症第6波等に備えるためにも、リモートでのイベント開催も検討していきたい。今年度、総合図書館本館においては、おはなしの家は換気が十分でないため、おはなし会は場所を変えて開催したいと考えている。
事 務 局	総合図書館本館においては、『Fukuoka City Wi-Fi』が1、2、3階で利用できる環境が整備されているが、分館ではWi-Fi環境が整っていない状況である。しかし、今年度から来年度にかけて、公民館や市民センター、地域交流センターにおいて、Wi-Fi環境を整えていくことを市民局が考えていると聞いている。また、リモートでの会議については、市側だけでなく、委員の方の環境整備も必要であり、その状況が把握できなかったため、令和3年度福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議においては書面会議を開催し、福岡市総合図書館運営審議会は委員の人数が多いことや緊急事態宣言や福岡コロナ警報も解除されたこともあり一堂に会しての会議を開催したところである。今後、社会的状況を見ながら会議のあり方について検討していきたい。

委員	<p>福岡市の貸出冊数の減少が全国に比べて非常に大きい原因としては、図書購入費等の予算の削減等があると思うが、その対応を図書館だけでなく、福岡市全体の問題として考えていかないとこの減少傾向が続いていく可能性があるため、対応を検討してほしい。</p>
委員	<p>19～20 ページの文書資料についてであるが、文書資料は寄贈や購入により増え、令和2年度では30万点近くに達している状況である。図書館内で十分な収蔵スペースがあれば良いが、収蔵している資料がどのくらい活用されるのかが重要なことであり、公文書資料や行政資料の活用状況が見えてこない。収蔵してもほとんど活用しないことが多い状況ではないのか。古文書資料や郷土資料、文学資料は重要なものが多く廃棄は困難だと思うが、今後、公文書資料や行政資料等はPDF等のデータ化し、現物は廃棄することも検討すべきではないか。</p>
事務局	<p>公文書資料については、完結後30年経過した永年保存文書と、保存期限を過ぎた有期限文書の中で歴史的文化的価値を有するもののみを収蔵している。行政資料については、市民へ配布する冊子等の刊行物等を収蔵している。PDF等の電子媒体がどの程度の長期保存に耐え得るのかははっきりしていないこともあり、電子媒体だけ保存し現物は廃棄することはしていない状況である。また、最近の公文書資料、行政資料については、紙媒体がなく電子媒体でのみ作成されているものもあり、記録媒体の変遷を見ながら検討していきたい。また、資料をマイクロフィルムで保存しているものもあり、マイクロフィルムであれば収蔵スペースも取らず、保存状態が良ければ300年、400年間保存できるため、それらのすみ分けも考えながら検討していきたい。</p>
委員	<p>先日、北九州市立文学館に行ったときに、「詩の水脈—北九州 詩の100年—」が開催されていた。北九州市立文学館は、規模が大きく迫力があり、展示も素晴らしく企画費用を費やした企画展が開催されており、非常に羨ましく感じ、また、福岡市民として恥ずかしくも感じた。福岡市も以前は、赤煉瓦文化館内にサテライト的に福岡市文学館があったが、現在は総合図書館の1階の一部分に展示スペースがあるだけである。文学館という箱が必要だと言うわけではなく、また、経済が発展してその後ということかもしれないが、文化が根付かないところ、文化が育っていない街が発展するはずがないと思っている。その幹を支えるのが、また、その一翼を担うのが図書館事業ではないかと思う。そのためにも、福岡市の方針かもしれないため、今すぐの対応は困難かもしれないが、あまりに削りすぎていると感じている予算の確保をお願いしたい。これは、総合図書館運営審議会委員として今後も言い続けなければならない問題であると思っている。総合図書館職員にも、図書館事業とは別に文学館事業を一生懸命実施している北九州市立文学館に行って、そこで働いている方の熱気を感じる企画展を見てきてほしいと思っている。</p>
事務局	<p>北九州市立文学館には私個人としてはまだ行ったことがないが、総合図書館職員の中には何度も行っている職員がおり、また、今回の企画展の様子についても報告を受け、図録等も拝見し、福岡市の文学館事業に比べ潤沢な予算が確保されていると感じるところである。福岡市についても、周辺地域も含め数々の文学者を輩出している土地柄であり、先人達の文学に関する資産を活用しながら、現在、文学で活躍されてい</p>

<p>委員</p>	<p>る方々や愛好されている方々のご期待に添えてまいりたい。直ぐには文学館事業の予算を増大させることは困難であるものの、少ない予算であっても、図書館内に文学館が設置されていることで利用者が図書館の本を借り出しやすいといった利便性を生かしたり、ウェブ等ICTの活用したりするなど工夫し、文学館事業を実施していきたい。引き続き、ご支援をお願いしたい。</p> <p>15 ページの「10 新ビジョンの推進」についてであるが、令和2年度第2回福岡市総合図書館運営審議会で、内部評価を行う際は、図書館要覧に掲載されている職員数145人全員に目を通してほしいという意見を言った。また、福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議の委員でもあるため、令和3年度の当該会議の際に、外部評価をするにあたり、再度、事務局に質問したが、会議等で意見を集約しているという回答であった。145人全員に新ビジョン事業計画25項目についての評価票を渡し、145人全員に内部評価を記載してもらい、その評価を集約することをしないと、本来の意味の意見の集約にならないと思う。そのため、次回の点検評価会議では実施してもらいたい。課長や分館長等が在席している場や大勢の人がいる場における会議等による意見の集約では、自分の意見を言うということは、日本の風土ではほとんどできないことである。また、契約社員についても、図書館をより良くするための意見があるかもしれないため、そのような意見も是非、汲みあげて、それをもって内部評価とし、点検評価会議の基礎資料として出してほしい。会議等で意見を集約しているから十分であるという考えでは、分館を含め、福岡市図書館で働く人の意見を吸い上げていないため、自己点検をしたことにならないと思う。数年前、新ビジョン事業項目が30項目であった際に、司書の資格を持った図書館職員に新ビジョン事業計画の評価項目を見たことがあるか聞いたが、「見たことがない」と言われた。そのようなことが無いよう145人全員に新ビジョン事業計画25項目についての評価票を配ってほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在、各部門毎の会議、分館と本館との会議、指定管理者との会議等により意見等を聞いており、沢山の意見を受けているところである。現場にどのように対応していくかについては、それぞれの意見を吸い上げながら、要望に対応できることとできないことがあるため、意見交換しながら対応している。内部評価については、今後の課題と考えるため、検討したい。</p>
<p>委員</p>	<p>図書の貸出冊数の減少は、全体的な傾向であると思う。一番大事なことは、幼い頃から図書に親しみ、読み聞かせの活動を行うことであるが、公民館として何ができるのかと思う。子育て事業等がある際に、読み聞かせの方々に来てもらい、その場で図書に触れてほしい。また、福岡市は11月1日から福岡市内公民館全館149の公民館で、フリーWi-Fiが原則として避難所運営時に使用可能であり、一般に使用するにはもう少し時間がかかる予定である。Wi-Fiの使用方法について公民館職員は研修を受ける必要があると思うが、図書館職員も是非、研修を受けてほしい。</p> <p>また、公民館で上映した「ジャングルスクール」という映画は非常に良かったと思う。30人定員で募集したが、募集人数を上回る応募があった。他の公民館でも映画上映が増えると、身近に映画に触れることができるため大変ありがたいと思う。「ジャン</p>

事務局	<p>「ジャングルスクール」以外の他の映画の上映の予定はあるのか。</p> <p>地域での読み聞かせについてであるが、図書館側としても直接行うことが大事であると思っているが、新型コロナウイルス感染症の影響や、また幼い子どもはワクチン接種前という状況もあり、困難であった。現在、ようやく読み聞かせの再開を行っているところであり、状況を見ながら読み聞かせの継続をしたいと思っている。</p>
事務局	<p>図書館職員への Wi-Fi の研修についてであるが、現在のところ Wi-Fi の使い方の研修はできていない状況である。時折、利用者からの問い合わせがあるため、可能な限り運営課にて対応しているところである。今後、Wi-Fi の研修について検討したい。</p>
事務局	<p>アジア映画の公民館上映については、現在、「ジャングルスクール」を含めて4本の映画を用意している。教育の大切さを描いた同作のほか、インドネシアの島に住む子ども達の成長過程等を描いた青春群像劇が2本、もう1本はソ連崩壊に翻弄される山深い村の生活を実話をもとに描いた中央アジアのタジキスタンの映画である。今年度、公民館に上映希望について募集したところ、11館で手が挙がり上映予定であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延による公民館休館等で上映できなかったところも多いため、日程を組み直して徐々に上映を実施しているところである。</p> <p>また、Wi-Fi の活用については、今年度、文学・映像関係の事業でもオンラインでの講座等を4回程度実施したが、現状では当館の Wi-Fi 環境では脆弱であるため、一定規模の催事であるとその都度ネット環境を整備するのに費用を要するなど、簡単ではなかった。また、集合して実施する研修や講座と同等の効果をオンライン開催で得ようとする、講師側にも集合研修とは別の形態のコンテンツや講義手法が必要となるなど過重な負担が掛かる。文学・映像関係の催事のオンライン対応については、その可否を開催の都度検討しているところである。</p>
委員	<p>緊急事態宣言下での図書館の開館についてのお願いである。福岡市の方針等により図書館だけ開館するというのは困難だった等の事情があるのかもしれないが、西日本新聞に、読者からの投稿があり、隣町の中学生の女の子が、自分の町の図書館は休館しているため、本を借りることができなかったが、調べ回ってようやく分区で開館している図書館を見つけたため、祖父母と来館し、大切そうに2冊の本を借りて帰ったという記事であった。また、本を読みたいが、図書館が休館しているため、仕方なくゲームで時間を過ごしたという子どもたちの話も聞いている。現在、新型コロナウイルス感染症がある程度鎮静化してきている状況であるが、感染症は今後も別の形で発生するかもしれない、新型コロナウイルス感染症の第6波が起こる可能性もある。その中で図書館が休館している状況は、様々な意味で生活に関わる問題である。自分自身も、どうしても手にしたい本があったが、休館中のため手にすることができないということがあった。図書館は休館していても、デパート等は開館していた。図書館にてクラスターが発生したという話は聞かないため、従来通りの開館は無理でも、予約を受け付ける、図書館入館人数の制限をする等の何らかの形で図書館が利用できる体制を検討してほしい。図書館は重要な情報の基地だと思っている。</p>
事務局	<p>図書館の臨時休館により、市民の方々には非常にご迷惑をお掛けしたことは実感し</p>

<p>委員</p>	<p>ている。図書館側としても早く開館したいと思っていたが、開館条件にそぐわなかった。昨年度においては全国的に図書館が休館しており、今年度においては、県の方針に沿って県内の図書館はほとんど休館している状況であったため、その対応に沿ったところもある。地方公共団体としての考え方は様々であるが、福岡市においても、できる限り開館していくことを今後検討していく必要があると考えている。対面では困難であるため、貸出予約を受け付け、予約本の受け取りのみ行ったり、電子図書館を活用したり等の対応で休館の補完をできるような形を今後も検討していきたい。新型コロナウイルス感染症第5波の途中で福岡市図書館は開館に踏み切ったところである。できる限り皆様に利用していただける施設になるよう検討していきたい。</p> <p>コロナ禍において、学校の子供も達は図書館に行く機会が減少している。7月に福岡市全体で生活実態調査があったが、子どものメディア接触時間が非常に増えていて、コントロールができていない実態がある。学校も今年度から1人1台端末を使用するようになり、パソコンを使って授業を行うことに、子ども達が有用性を感じている部分もある。しかし、子どもにとっては、アナログで本をしっかりと読むことが大事な時期であるため、何かできないかと思う。学校は数年前まで博物館とタイアップし、図書館に全員がバスで来館し、見学をする事業もあったが、そのような機会も今は無くなっている。子どもたちの生活体験の中で、公共図書館に行き、本を借りる等の体験が減少している。子どもが本に触れる機会を増やす手立てはないかと思う。9ページの学校図書館支援センターについてであるが、学校でも役立てたいと思うが、どのような使い方ができるのかがよく分かっていない場合もあるので、使い方の例を挙げて、この例が有効だった等教えてほしい。その内容を持ち帰り、広げていきたいと思う。また、子ども達は1人1台、端末を所持しているため、その端末を通じて、総合図書館ホームページ等にアクセスし、本についての様々な情報が取得できたり、予約できたり、また、学校の図書館にはパソコンがあるため、学校図書館で探したが、借りたい本がなかった場合、学校図書館のパソコンから総合図書館の検索ページにアクセスでき、本を借りることができるシステムがあると、子ども達が本に触れる機会が増えるのではないかと思う。また、子ども専用の図書館が福岡市にあったら良いと思う。大阪では中之島に「こども本の森 中之島」ができ、大人が利用しても魅力的な図書館となっている。商業施設の一部に図書館がある等の立地的な魅力を兼ね備えた図書館分館が増えていくと、ファミリー世帯も利用しやすく、利用が増えると思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校図書館支援センターでは、総合図書館本館に、校長OB、司書資格を持つ読書相談員3名を専属で配置しており、学校に出向いたりしながら、一定期間本の貸出を行っている。一般貸出図書とは別に、学校貸出用の図書を用意しているため、是非活用してほしい。総合図書館ホームページ上でも案内しており、気軽に問い合わせしてほしい。また、学校図書館での選書の仕方やどのような本を紹介したらよいのか等アドバイスも含めて行っているため、活用してほしいと思っている。こども図書館につい</p>

事務局	<p>ては、総合図書館本館の一部にこども図書のスペースを設けており、別個の建物を建てるのは、困難な状況である。こども図書については充実させていきたいと思っている。また、貸出拠点の問題については、図書館側も認識しており、早良南図書館も明日開館するところであり、そのような分館の他、貸出ができるところが無いか等検討していきたい。</p> <p>システムの件であるが、総合図書館ホームページにて、分館も含め図書館が所蔵している本を検索し予約ができるシステムがあり、ホームページにアクセスできれば、誰でも利用可能である。ただし、本の受け取りについては、予約後、本館や分館等に行きに行くしかない。また、電子図書館では、約8,400点のコンテンツがあり、コンテンツによっては、一度に1人しか借りることができないものや、たくさんの方が借りることできるものがある。昔の文学作品が多い青空文庫等著作権が切れたものは、何人も同時に借りることができるコンテンツである。学校では、1人1台端末を所持しているため、是非活用してほしい。福岡市図書館では本を借りることができるが、本館を含め11か所、明日、1か所増えて12か所になるが、まだまだ他都市と比べて充実していないところもあるため、図書館に出向くことが困難である場合は、電子図書館等で本を知る、本を読む等もお願いしたい。</p>
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 報告事項

報告1 令和2年度福岡市総合図書館の運営に関する評価について (福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議の報告)

委員長	<p>前回の会議で、目標設定する際、可能な限り数値目標を入れたらどうかと提案したが、今回、数値目標を掲げている計画がほとんど見当たらない状況である。計画全体的な表現として、推進する、継続する、努める、促進する等のあいまいな表現がほとんどである。あいまいな計画であれば、評価もあいまいにならざるを得ない。努力しましたと言えば、評価はAかBとなる。そのような状況で、市民の方が見たときに本当に評価がAかBなのかと思うのがいくつもあると思う。計画があいまい過ぎるということを指摘しておきたい。数値目標の具体的な例として、職員のリモートでの研修参加率95%以上を目指す等の数値を設定しないと誰がどう査定するのかという話になる。また、18ページの内容13について、取組の状況を見ると、結局計画通りにできておらず、代替案を考えて実施している。つまり、当初の計画が実施されていないため、評価はCかDとなる。しかし代替案を考えて、本来の目的に沿ったことを実施したことは大変評価して良いと思うが、本来のA～Dの評価基準では代替案で目的を達成したという項目がないため、評価基準A～Dについても検討した方が良いと思う。コロナ禍で実施できなかったが、違う方法で目標を達成しようと努力したことは評価して良いと思う。</p>
事務局	<p>数値目標等、目標を明確に立てるべきであるということについて、確かに、現在の目標では、目標を達成したか否かが、市民の方から見れば分かりにくいいため、表現について検討させてほしい。</p>
委員長	<p>内容12のモデル児童図書リストについてであるが、小学校4年生と小学校2年生の</p>

事務局	<p>子どもがいることもあり、夏休み等長期休暇の前に課題図書が毎年発行され、それを読んで作文を書いたり、絵画を描いたりすることがあるため、その課題図書を本屋で購入したりしている。予算の関係もあるかと思うが、この課題図書を図書館側が準備すれば、親や子ども等が夏休みに図書館を利用してみようという気持ちになるのではないかと思う。また、課題図書等のタイムリーな情報等もホームページ上で掲載してあれば、喜ばれるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>学校図書館支援センターが、学校から依頼を受けて図書の案内を行うことも可能である。教育委員会の学校担当部署に情報提供し、何ができるのか協議したいと思う。リモートでの読み聞かせ等、取り掛からなければいつまでたっても進まない。私自身、対面での子どもへの読み聞かせや本の紹介等を30年程度実施していて、リモートでの読み聞かせについては消極的であった。しかし、コロナ禍で対面での読み聞かせができなくなり、民間等で実施しているリモートでの読み聞かせ等の会の参加で、リモートでもやればできると思った。福岡市の場合は予算の確保の問題もあると思うが、予算をしっかりと確保し、ここで何か一つを実施すると決めて動いた方が良いのではないかと思う。今後も新しいウイルス等の発生により対面での読み聞かせが困難になる場合も考えて、その対応への練習のためにもリモート対応についてしっかり考えてほしい。</p>
事務局	<p>新型コロナウイルス感染症が収束したわけではなく、また、今後、新しい感染症が発生する可能性がないわけではないため、図書館の臨時休館等、今後のことを想定しながらリモートでの開催も含めて、読み聞かせ等ができる方法を検討していきたい。提案していただいた方法等も参考にしながら研究したい。</p>
委員長	<p>14 ページの内容 9 の団体貸出先の拡大について、5 年間で 420 団体を目標としているが、初年度である令和元年度で 415 団体が団体貸出先として登録されており、また、令和 2 年度で 419 団体となっているため、目標達成まで残り 1 団体である。この計画はそもそも 5 年間の数値目標なのかと思う。相当努力したため、この数値になったかもしれないが、3 年間の目標で良いのではないか。途中の計画の見直しはあるのか、数値の上積みはするのか。</p>
事務局	<p>令和 3 年度で、目標の団体貸出先 420 団体を超えている状況である。今後、目標の数値をどうするのか等、計画上の数値を途中で変更することについては検討したい。しかし、実際の目標設定については、更に上積みできるように目標を立てながら実施していきたいと考えている。</p>

報告2 早良南図書館の開館について

<p>委員</p>	<p>運営審議会委員となって以降、西部図書館、東図書館、また今回開館する早良南図書館の3か所の福岡市図書館ができたが、いずれの図書館においても、このような計画で、このような図面で、このような方法で運営する等の説明が運営審議会ではなされていない。西部図書館は開館後、カウンターから見えない場所に非常出口があるという非常に良くない状況であることが分かった。西部地域交流センターの建物自体は福岡市が建設し、このスペースを図書館として使用して良いという形で図書館側に渡されるパターンとなっていた。また、東図書館ではカウンター周辺に西日が当たる、設計ミスと思われる状況であった。そして、今回の早良南図書館においても、日光が燦燦と書架に差し込み、本が日焼けし劣化していく心配をしてしまうような図面となっている。このような状況を事前に運営審議会に報告されず、粛々と図書館建設を進めていき、完成後に報告される。今後、分館建設はないかもしれないが、運営審議会に逐一、どのような計画で、東西南北方向等含めたこのような図面の図書館等を示してもらわなければ、後日、ああすれば良かった、こうすれば良かった等の後悔する心配がある。今後のことも含めて検討してほしい。</p> <p>長期間、運営審議会委員をしていると、その時々図書館管理職には意見が伝わるが、その方々が人事異動すると、運営審議会での意見等の情報がほとんど継承されない状態であるため、何度、同じことを言い続けたか分からない。何度言っても改善されないまま管理職職員が別部署に異動となり、代わりに何も知らない管理職が図書館に異動してきて、また説明をするという状況を繰り返している。十分に引き継ぎをしてもらい、また、運営審議会の議事録は、総合図書館ホームページ上に公開されているため、後任者には全ての議事録を読んで理解して、職に就いてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>早良南地域交流センター建設を担当する部署が、同じ福岡市役所内であるが、別の局が担当していることもあり、情報を仕入れにくい状況であった。しかし、分かる範囲で運営審議会に報告させていただいたと思っている。本に日が当たることは良くないということは、以前から言われていたこともあり、図書館側としても理解している。早良南図書館の閲覧席が西側を向いているが、直射日光が入らないよう、普通の建物より庇を長くする等の紫外線対策を行っている。運営審議会にて報告した早良南図書館の図面には庇が入っておらず、分かりにくいこともあり、説明不足で申し訳ない。</p> <p>また、公務員である以上、異動があることは仕方ないことであるが、異動の際には、懸案事項等については、必ず引き継いでいくという事務手続き等を取っている。また、運営審議会については、議事録を作成し保存しているため、そこも踏まえて、図書館の将来的なビジョン等も含め、しっかり引き継いでいきたい。</p>

4. 閉会

館長挨拶／事務連絡